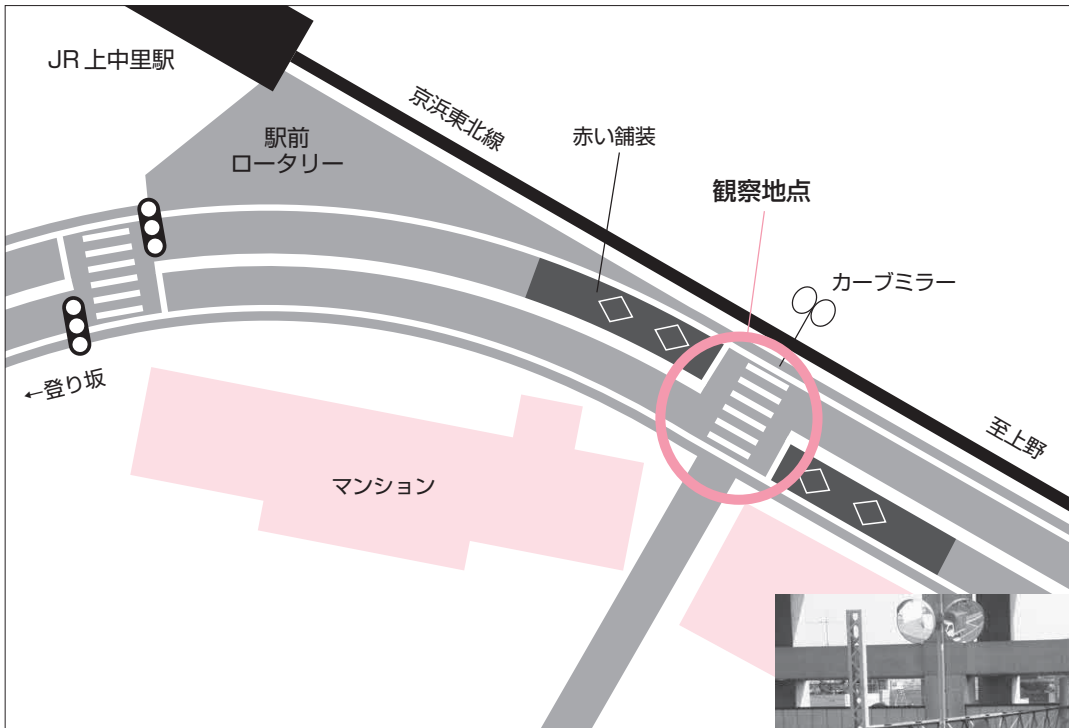


Q1

車両159台中、一時停止しないで通過したのは何台でしょうか？

※道路を横断しようとする歩行者に接近した車両のみを観察



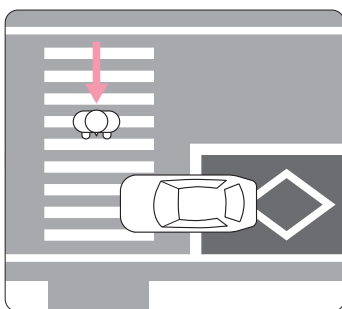
歩行者が横断待ちをしても一時停止をしないクルマが多い

- 観察場所 / 東京都北区上中里1丁目付近
- 観察日 / 2007年6月13日(水曜日)
- 観察時間 / 7:50~8:50



Q2

横断しようとしている歩行者がいても停止しないクルマを目撃！
事故を防ぐには、どうすればよいのでしょうか？



こんな事故が起きています

横断歩道や横断歩道付近で歩行者と車両の事故が多い

平成18年中の人対車両の交通事故は、77,412件。その内、道路を横断中の歩行者と車両との事故が44,513件起きている。さらに、その約半数の23,518件が、横断歩道および横断歩道付近で発生している。

横断歩道の周辺では、ドライバーは歩行者の動きに注意した走行が必要となる。(警察庁交通局資料)

道路交通法

横断歩道等における歩行者等の優先
(法38条第1項抜粋)

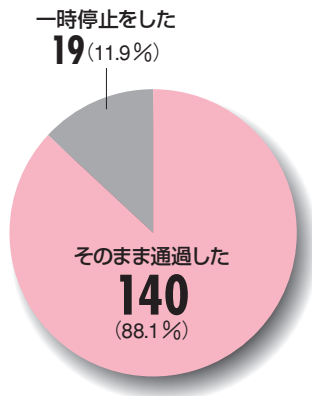
車両等は、横断歩道等に接近する場合、その横断歩道等の直前(停止線の直前)で停止できるような速度で進行しなければならない。この場合において、その進路の前方を横断し、または横断しようとする歩行者等があるときは、その横断歩道等の直前で一時停止し、かつ、その通行を妨げないようにしなければならない。

……実際に観察しました

Q1
の解答

140台 (88.1%)

●信号機のない横断歩道で歩行者が横断しようとしたときに接近した車両の一時停止状況 (159台中)



	一時停止をした	そのまま通過した	計
乗用車	8 (15.1%)	45 (84.9%)	53
商用車 タクシー	8 (11.8%)	60 (88.2%)	68
二輪車	3 (18.7%)	13 (81.3%)	16
自転車	0 (0%)	22 (100%)	22
計	19 (11.9%)	140 (88.1%)	159

歩行者が横断しようとしている時に接近した車両は、乗用車53台、商用車・タクシー68台、二輪車16台、自転車22台の計159台。このうち、一時停止した車両は、乗用車8台、商用車・タクシー8台、二輪車3台、自転車0台の計19台だった。歩行者がいても140台 (88.1%) の車両は、そのまま通過しており、逆に歩行者側が積極的に左右確認を行い、車両が途切れるまで待つて横断する例がほとんどであった。

車両が連なって進行してくる場合、先頭車両が一時停止をしないと、後続車もほとんどそのまま通過していた。幼児や小学生が横断歩道にいた場合は一時停止する例もあったが、歩行者が中高生や大人の場合は、そのまま通過してしまうことが多いように思われた。



歩行者保護をした自転車は1台も見られなかった

CLOSE UP

歩行者保護をまったく行っていない自転車

観察では、歩行者を優先させた自転車は1台も見られなかった。乗用車が歩行者保護のために停止している間にも、横断中の歩行者の脇をすり抜けていく自転車が観察された。

Q2
の解答

横断する歩行者を優先させる

【解説】信号機のない横断歩道では、歩行者側はクルマが止まってくれるものと思い、接近するクルマがあっても横断してくる可能性がある。横断しようとする人がいないかどうか十分に注意して走行する必要がある。

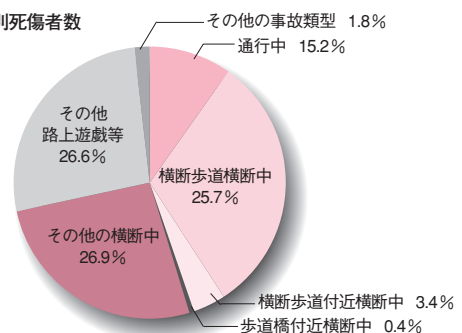
ここが
ポイント

- 進路前方の横断歩道を横断しようとする歩行者がある場合は、必ず一時停止する
- 横断歩道付近では注意して進行する

ワンポイント DATA

横断歩道横断中の事故が多い

歩行者の事故類型別死傷者数
(構成率)



平成17年の歩行者の事故を見ると、約6割が道路横断中である。しかも横断歩道横断中の事故も25.7%ある。

横断歩道は、歩行者が安全に横断できる場所。横断歩道に歩行者がいたら、運転者が歩行者を優先させることが大切だ。

(財)交通事故総合分析センター資料